令和４年度第３回コミュニティ・スクール委員会

（清水・御影 CS 委員会合同開催）

会　　議　　録

１ 出席委員等

清水 CS 委員会~宮城委員、森委員、土屋委員、小室委員、中村委員、堀委員、石井委員、横山委員、下坂委員、松橋委員、近藤委員　　欠席~長尾委員

御影 CS 委員会~米光委員、口田委員、山田委員、中村委員、久野委員、上谷委員、谷口委員、森委員　　欠席~田中委員、細田委員

【教育委員会】山下教育長、高谷主事

【事務局】大尾学校教育課長、安ケ平社会教育課長、太田同課参事(支所長)、野田教頭、平野教頭、津田教頭、三木教頭、堀口教頭、休宮教諭、柳田教諭、木下教諭、和泉教諭、上出 CS コーディネーター

２ 場 所　　清水町御影公民館大集会室

３ 日 時　　令和 5 年 2 月 27 日（月）18 時 30 分

４ 傍聴人数　１名

５ 会議内容

教育長あいさつ

過日両小学校において CS 委員の授業参観と給食試食が行われ、学校の実情や児童の様子をみていただいたので今後の CS の活動に活かしていただきたい。また、清水幼稚園が 3 月をもって閉園となるが、これまでの歴史的意義が新たなこども園に引き継がれることとなる。

両委員長挨拶

清水 CS 委員会土屋委員長より子ども達のために協議いただきたいとのあいさつあり。

御影 CS 委員会中村委員長より校内暴力のニュースに触れ、思いやりの心の醸成が必要とのあいさつあり。

説明･協議事項

（1）各学校等の取組結果について（各学校等から説明）

幼稚園、清水小、御影小、清水中、御影中の順に、事前配布資料(教育のデザイン診

断編)に基づき説明

意見～御影中の説明資料に付してある QR コードからスマホで簡単に見られるように、地域の人に身近に学校の様子に触れられる工夫が必要ではないか。

答弁～CS ニュースは広報お知らせ版にて QR コードを示しているが、各学校における対応が可能かを含め、持ち帰り検討したい。

各学校等の説明に対し他に意見無く、全体で承認される。

(2)小中一貫教育について

・教育長より清水町小中一貫協議会推進協議会実施報告について資料に基づき説明

・清水地区の「推進の反省」について、推進委員会事務局である清水中学校平野教頭より資料に基づき説明

・御影地区の「活動報告」について、推進委員会事務局である御影中学校堀口教頭より資料に基づき説明。

説明に対する質問・意見なし

(3)意見交換(熟議)

清水 CS 委員会と御影 CS 委員会をそれぞれ 2 分散会で討議の後、全体で発表を行う。

小中一貫教育を推進するにあたって、子ども達がどのように育ってほしいかなど、めざす子ども像を話し合い、清水町小中一貫教育推進協議会で定めた「目指す 15 歳の子ども像」に各地区で協議された「めざす子ども像」を含め、設定された内容を深め、補強していくため意見交換を行った。

A 班～清水

・清水中学校ではめざす子ども像の 4 項目の他に六華の教えにより自学・探求を重視し指導しているが、自ら行うことは難しいので、周りが励まし合い切磋琢磨することが大切だ。 ・下校バス待ちで、小学校高学年が低学年に対し読み聞かせや紙芝居など自主的に行っていた。中学校においても先輩の姿を見て憧れ、自主的に先輩の良いところをまねしている。先生はある程度の道標を示すが生徒たちの主体性を育てるため見守る指導も大切になるのではないか。幼稚園においても遊びの工夫など自主的な活動のためには先生方のサポートは必要だが、幼小中と段階的に自主的・主体的活動に対する先生方のサポートは必要。 ・感性を豊かにするためには読書習慣が必要だが、デジタル化で紙媒体での大切さや小さい頃の読み聞かせがコミュニケーション力を育てる。本の行間を読むことや美しい日本語を学ぶことは大切だ。活字力を育てることは大切で、清水小学校たよりカリヨンは非常に参考となる。

B 班～清水

・小中一貫教育を進めるためには小学校と中学校との授業時間の違いや中学校は高校入試のプレッシャーなどあるが、9 年間の学びの連続のためのスタートに立ったといえる。教員相互の連携交流研修など時代が求めている。
・不登校などで悩んでいる子供たちが社会性を途切れさせないようにサポートしていかなくてはならない。そのためにも 9 年間を 4・3・2 に分けたほうが理想的な教育ができるのではないか。また、コミュニケーションの固定化とならないような工夫が必要。

C 班～御影

・示されているめざす子ども像について、御影地域はすでに根付いているのではないか。保育所から始まり、異学年交流を大事にし、少年団活動などを通じベースができている。
ただ、転入者にとっての入りづらさはあるのではないか。メンバーが変わらないが不登校となる子どもは出る。きっかけ作りや声掛などケアは必要。
・狭いコミュニケーションというデメリットのためには、清水・御影の学年交流を行うことが必要になるのではないか。(例えば合唱での交流)
・また、十勝清水学を学んでいるので CS ボランティアや地域コミュニティーを利用してもらうことや地域としてもそれに関わっていくことが大切だ。

D 班～御影

・御影地域においてはめざす姿はすでに根付いている。
・CS 委員会で出された意見が具現化されればめざす 15 歳の子ども像に近づくのではないか。具体的にはボランティアと学校とのつながりの地域への周知と周知方法の確立。(PTA への紹介やボランティア活動時の授業参観などボランティアと学校・子ども達にとって実感の沸くものを)

質問～清水 B 班のコミュニティーの固定化しない方法とは
答弁～幼保を含めると 9 年間を超えたコミュニティーにより人間関係の固定化となる恐れがあるので、それを崩す方法としては、清水と御影の交流は良い方法であろう。
質問～毎回、熟議でよい意見が出るが、具体化されずもったいない。次の年度から一つでも実現すればよいのだが。
答弁～貴重なご意見なので持ち帰り少しずつでも実現できるように可能性を探りたい。
質問～CS 委員会で話し合われたことを各学校に配布して見てもらってはどうか。
答弁～校長ほか学校関係者も参加していただいており、必要であれば検討したい。
質問～不登校への対応について教えてもらいたい。
答弁～少ないが不登校の子供はいる。プライバシーの面があるので具体的な話はできないが、各学校では日々努力しており、声掛やつながり、信頼関係の構築などで解決に向かった事例もある。また教育委員会としても指導専門員やスクールソーシャルワーカーの配置などで対応している。

教育長～実現に向け教育指導幹を配置し具体的な行動できるようにしていきたい。
また、不登校については学校だけでは限界であるので、専門指導員の配置や関係機関にも関わってもらい解消に努めたいが不登校となる原因は様々なので、今やれることは最大限行っていきたい。

(4)その他

特になし

学校教育課長の閉会あいさつにより終了。
～出された意見を参考に次年度に活かしていきたい。開かれた学校づくりを進めながらコロナ禍で停滞気味だった小中一貫教育推進のスピードアップを図りたい。

（20 時 33 分）